

## 相手意識は思いやり？

校長 近藤 幸栄

6月になり、草木は一層勢いを増し生長を始めました。校長室脇のグリーンカーテンのゴーヤの苗も、蔓を伸ばしはじめ、植えて半月も立たないうちにあっという間に花を付け始めました。

校長室で業務をしていると、外部の方も含め様々な人が入ってきます。ドアをノックする時、結構強めに『ドン・ドン』とノックをしてくる方もいます。ノックの音から「急いでいたのかな？自分の要件を強く要望しに来たのかな？」と感じてしまうこともあります。

また別に『コン・コン』と「お話ししてもいいですか？」「今の時間は大丈夫ですか？」と気遣ってくれているかのようなやさしいノックの時もあります。

どちらがどうというわけではありませんが、ドアをノックする音一つ、その人の人となりやその時の心持ち、心遣いが伝わってきます。私たちの日常の生活の中にも、そのようなことは多々あるのではないのでしょうか。

家にいるとき、もう立て付けが古くなってきたせいか、リビングのドアは気にせず閉めようとすると「バン」と閉まってしまいます。自分でもその音にびっくりしてしまうこともあります。リビングに誰かいるときには特に、最後手を添えゆっくり閉めたいものだと思う自分がいます。

また、休み時間が終わった時の児童玄関での様子を見ると、一斉に子どもたちが校舎に入ってきます。靴を履き替え急いで教室に向かう姿は皆一緒ですが、不意に横から飛び出す友達を見て、一瞬立ち止まりぶつからないように、先を譲る子どもの様子を見ることがあります。また、学習中グループで話をしている時に、何か言いたそうなどことを我慢して（待つ）、友達の意見・考えに耳を傾けている子を見る時があります。気遣いできる子は相手意識がしっかりとできているように思います。



学校は、大勢の中で生活するわけですので、自分の意見や考えを堂々と話す力も必要ですが、相手を気遣い、思いやる気持ちをもつことも友達関係を円滑にし、楽しい学校生活を送る上では大切な力となるのではないのでしょうか。また、遠慮ではなく気遣い・相手意識が人間関係をうまく築く上での大切な要素の一つのように思います。学校では学習の場面をはじめ、様々ななかかわりの中で、人との接し方・気遣いなども学んでいるように感じます。